

# 平成26年度 きよらの郷 福祉教育の実践紹介

★ゲストティーチャーを招いての出会い・交流・体験の推進と新たな人材発掘

## (1) 市原小学校・りんどうヶ丘小学校 4年生 ふくし学習会

小学校4年生の【国語】に「だれもがかかわり合えるように」という単元があり、その授業  
を活用して実施しました。

第1回 平成26年9月17日(水) 10:50~12:15 (りんどうヶ丘)

第2回 平成26年9月25日(木) 10:50~12:15 (りんどうヶ丘)

第3回 平成26年10月7日(火) 9:30~11:10 (市原)



### —考察—

- (ア) 山間部で生活する視覚障がい者が少ないため、ゲストティーチャーとして来ていただく方の確保が困難である。(日田市・熊本県盲協会などにあたったが良い返事は頂けなかった。)
- (イ) 小学生4年生の国語の授業で点字・視覚障がい者を理解する単元がある(9月頃から)
- (ウ) 教室内での目隠しをしての、ランドセル探し・教科書探し体験は、目が不自由でも出来ることにきづくことのできる体験として効果的であった。  
(例) 教科書では手触りの違いで見つけていた。  
しかし、教室の外にでると、沢山の障害があるため、健常者の支えが必要であることに気づいてもらうような働きかけも必要である。
- (エ) 当事者(地域の方)を招いての授業が生の声・交流があり、子どもたちの関心(興味)を高めたり理解を図る上では一番効果的である。
- (オ) ゲストティーチャーとして協力いただいた方も、やり甲斐を感じていただけたようで、今後共継続して関わっていただけるようにコーディネートしていく。

## (2) 市原小学校 (3年生) 社会科の授業

「昔の道具と今の道具の違いについて」 4名の地域(ボランティア)の方々が、昔の道具などを持参して、児童たちに昔の道具の使い方・今の道具との違いなどのお話をしました。

実施日時：平成27年2月13日(金) 11:20~12:05



## (3) チャレンジ小国GO 手話講座(6回講座) 小国高校生15名受講

小国高校生へ聴覚障がい者への理解と手話について興味をもっていただくことを目的として、地域の人材(手話登録奉仕員等)を活かした取り組みとして実施



### —考察—

手話を特技としている方も、手話の普及と聴覚障がい者への理解・関心(聴覚障がい者への偏見や差別、災害時での危険など)を図ってきたいという思いがあり、良いタイミングで学びの場を提供できた。受講した生徒も一生懸命に学んでおり、継続して続けていきたい。

## (4) 子どもデイサービスでの ふくし教育の検証

(ア) 絵手紙教室(ゲストティーチャー78歳の方)を通して、ありがとう(感謝)の気持ちを育む

内容：手作りの絵手紙をつくって、保護者宛に郵送する。

(イ) 点字を知ろう！(点字を通して考える)

内容：点字版を使って、点字を知る。



－考察－

絵手紙教室では、絵手紙を得意とする方をゲストティーチャーとして招いて、「ありがとうの気持ちを育む」を目的とした、絵手紙教室を実施。参加した児童は、思い思いの花の絵を描き、感謝の言葉をお父さん・お母さんへ書いていました。小学校へは、この取組の内容等を整理して情報提供していく。

★疑似体験セットを活かした ふくし学習会の実践

(1) 市原小学校（1・2年生）

内容：疑似体験学習を通しての高齢者への理解と敬う気持ちを育む。

学習後にお年寄りとのふれあい交流を行う。



(2) 市原小学校（5・6年生）

内容：疑似体験学習等を通しての高齢者への理解と敬う気持ちを育む。

学習後に通所介護事業所の利用者との交流



—考察—

交流の前に、事前学習（疑似体験学習・りんどう荘の利用者について）を行い、交流も一方的に歌などの発表を行うのではなく、おじいちゃん・おばあちゃん達へいろんなことをインタビューしようという企画で交流を図った。和やかな雰囲気での交流が図られ30分間があったという間に終了した。**（会話をすることで 相手を知る）**

施設訪問として、このようなインタビュー形式の交流は初めての試みであったが、短い時間ではあったが、子どもたちのコミュニケーション力（自分の考えを表現する）・利用者を知り、利用者の気持ちを共感するという点においてとても良い効果を得ることのできる交流となった。

(3) 夏休みりんどう荘介護体験ボランティア

(参加者 12名 対象学年 4～6年生 実施日 10日間)

内容：認知症サポーター講座、疑似体験学習、通所介護事業所での介護体験

事前・事後（振り返り）学習の実施



★防災教育を取り入れた福祉教育の推進（クロスロード）

- ① シルバーヘルパー総会（平成 26 年 5 月 13 日 26 名）
- ② ボランティア連絡協議会（平成 26 年 6 月 13 日 20 名） 14：00～15：00
- ③ 南小国中学生（希望者のみ）（平成 26 年 7 月 15 日 36 名） 16：30～18：00
- ④ 馬場自主防災組織（平成 26 年 11 月 9 日 54 名） 10：00～12：00

※ハイゼックスを活用した炊き出し訓練も行う。



—考察—

防災訓練（学習）の一つクロスロードの推進を目的に開催したところ、総合的にはとても反響がよく、災害時（緊急時）の対応・参加者同士の考え方の違いや同じを共有できるなど、受講された方々から良い評価を得ている。今後も積極的に推進していきたい。

## ★認知症サポーター養成講座の推進

地域福祉活動計画においても、認知症サポーターの養成講座の開催を重点項目にあげており、地域の様々な方々への受講を推進しました。

また、講師は地域の人材（キャラバンメイト）を活かして取り組んでいます。

—本会の関わった実績のみ掲載—

- (1) 夏休み介護体験ボランティア
- (2) 小国高校1年生 家庭科授業（担任：うとう先生）

※小国高校では、家庭科の授業で現在取り入れていただいています。

- (3) 杉田下地区



## ★福祉教育教材の整備と活用推進

- (1) 標準点字盤の整備（18セット購入）
- (2) 点字ロール
  - ◆学校側との話し合いの中で、点字盤のニーズがあり整備
  - ◆熊本県点字図書館訪問（点字版等についてアドバイスをいただく）

